



天皇代替わりに際しての日本福音同盟（JEA）社会委員会声明

「わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。」（ヨハネの福音書10章27節）

天皇代替わりと改元が、多くの人々の圧倒的な支持と祝意のうちに行われました。私たちは、こうした状況の中で私たちの信仰に今一度立ち返り、JEAとしての立場を共に言い表します。

天皇代替わりの一連の諸儀式の多くには、宗教的要素があります。殊に大嘗祭は、新天皇が天照大神を迎え寝食を共にして、天皇霊を受けて神になるとされる、純然たる宗教儀式です。宗教的要素を含む儀式の多くが国事行為として行われることは、憲法の政教分離原則違反です。

とりわけ宗教色の濃い大嘗祭は、国事行為ではなく皇室行事とされているものの、公的性格が強いことを理由に、国費が充てられることになっています。これは憲法の政教分離原則や信教の自由に配慮しているように見えて、実際には宗教儀式に国が関与することにほかなりません。

天皇代替わりの諸儀式に国が関与することは、皇室の宗教儀式は宗教ではなく、日本の伝統文化と言い換えるに等しく、なし崩し的に政教分離原則違反を既成事実化することです。これは、民主社会に対する欺きであると共に、キリスト教界に対する挑戦でもあります。

かつて日本は、現人神とされた天皇の名によって戦争と植民地政策を推進しました。そのとき日本の教会は、それは神の御旨にかなうものと受け止め、当然のこととして国民儀礼や神社参拝を行い、アジアの人々にも強要しました。それを信仰の問題として、受け止めることをしませんでした。

私たちは、このような戦時下の教会の罪を悔い改め、JEA 声明等で繰り返し確認してきました。天皇制・国家神道体制を標榜するナショナリズムと対峙することは、JEA 結集の大事な原点でもあります。今また私たちは、こうした JEA のアイデンティティーが問われる事態に直面しています。

私たちは過ちを繰り返さないために、天皇代替わりに際しての政府や日本社会の動向を注視します。そして、キリスト教的価値観に基づく信教の自由や政教分離原則がまもられるよう努めると共に、この日本社会で尊重されることを訴えます。

私たちは、「聖書を誤りなき神のみことば」と信じる聖書信仰に常に立ち、教会の内外に向かって「イエス・キリストが主である」と信仰を告白します。そしてこの時、私たちは目を覚まして神の御声を聞き分け、神のみこころを選び取り、この国で神の国の福音を宣べ伝えて行く決意を新たにします。

2019年8月5日
日本福音同盟（JEA）社会委員会
委員長 上中栄